

平成29年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム

「仏教に学ぶ保育の原点」

講演資料集

鶴見大学仏教文化研究所 主 催

会期： 平成29年6月10日（土）13時30分～

会場： 鶴見大学会館地下1階メインホール

タイムテーブル

会 場	鶴見大学会館地下1階メインホール（神奈川県横浜市鶴見区豊岡町3-18）	
13:00~	開場・受付	
13:30~13:40	開 会 コーディネーター 下室 覚道（本学教授・本研究所主任）	
	開会の辞 大山 喬史（本学学長・本研究所所長）	
13:40~14:10 (講師紹介を含む)	基調講演 佐藤 達全（育英短期大学教授・本研究所兼任研究員） 「仏教に学ぶ保育の原点」	
時 間	講 師	題 目
14:10~14:30 (講師紹介を含む)	山崎 和子 (本学短期大学部附属 三松幼稚園・園長)	「現場における仏教保育」
14:30~14:50 (講師紹介を含む)	山室 吉孝 (鶴見大学短期大学部・教授)	「乳幼児期における道德教育」
14:50~15:00 休 憩 (10分)		
15:05~15:25 (講師紹介を含む)	橋本 弘道 (鶴見大学短期大学部・准教授)	「保育者論としての仏教保育」
15:25~15:45 (講師紹介を含む)	仙田 考 (鶴見大学短期大学部・講師)	「仏教・保育・子どもの環境」
15:45~16:00 休 憩 (15分)		
16:00~16:30	パネルディスカッション&質疑応答 佐藤達全・山崎和子・山室吉孝・橋本弘道・仙田考 コーディネーター 下室 覚道	
16:30~16:35	閉会の辞 木村 清孝（本研究所特別顧問）	

仏教に学ぶ保育の原点

佐藤達全（育英短期大学）

1 私の仏教との関わり

私自身のこと＝曹洞宗寺院の生まれ（後継者と決めていた父親）
不本意ながら駒澤大学に入学して仏教学（禅学・宗教学）を学ぶ。
父親が遷化した 8 年前から住職。保育園理事長。
教員として＝家政科を経て保育科に勤務して保育・幼児教育等の教科を担当。
公益社団法人・日本仏教保育協会の機関誌『月刊仏教保育カリキュラム』に
「やさしい仏教入門」を連載（1995 年 4 月号から 1996 年 3 月号）し、その後も
仏教と保育に関する 1 年間の連載原稿を 5 回執筆した。
日本仏教保育協会が主催する研修会や隔年に開催されている全国大会で、講師や助
言者として活動している。
鶴見大学短期大学部保育科と専攻科で非常勤講師として必修科目の「仏教保育」を
担当（1998 年 4 月から 2015 年 3 月に定年退職するまでの 18 年間）。
仏教系の幼稚園・保育園の職員研修会や保護者講演会で講師を務めている。

2 幼稚園教諭・保育士・保育科の学生等と接して感じたこと

幼稚園教諭や保育士（保育者）の関心は当然のことながら「保育」に向いている。
保育者をめざしている学生の関心も「保育」である。
幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するには文科省や厚労省が指定する教科の単位
を修得しなければならないが、仏教保育は指定科目ではない。
そのため、建学の精神に基づいて「仏教保育」は大学が卒業必修に指定しているが、
多くの学生は「なぜ、保育の勉強に仏教が必要なのか」と疑問を抱いて、前向き
に取り組まない傾向が見られた。
日本仏教保育協会（加盟園 1089 園：平成 27 年現在）以外に、仏教各宗派に関係す
る幼稚園・保育園・こども園が加盟する団体があり、その合計は約 2900 園（『わ
かりやすい仏教保育総論』チャイルド本社発行 2004 年による）であるが、
日本仏教保育協会の加盟園は減少傾向にある。
また、各宗派で開催する研修会への参加者もあまり多くないと感じられる。

その理由は、研修会において保育と仏教の接点を十分に示すことができないから
ではないだろうか。

3 保育と仏教に接点はないのか

これまでの 20 年間、日本仏教保育協会の研修会や鶴見大学で授業を担当する中で、
保育と仏教は「いのち」という共通のキーワードで強く結ばれていることを確
信するようになった。

保育という言葉には、乳幼児の*未熟な「いのち」を保護するという意味と、その
「いのち」が自立して生きられるよう教育するという二つの意味が含まれている。

*ポルトマン（スイスの動物学者）は「人間は生理的な早産である」と言った。
新生児は自分の頭を支えることもできない状態で誕生し、その後も自立して
生活できるようになるまでには多くの時間が必要で、これは人間以外の哺乳
類と大きく異なる点であるとした。

仏教は自分や自分以外の「いのち」と向きあってその本質を探究し、終わりが来
るまでの時間を悔いのないように生きるための道標とすべきものである。

言いかえると、仏教というのは「いのち」についての真理を示したもので、
そのことは「*仏陀の教え」の短縮形が「仏教」であることから伺えよう。

*仏陀は Buddha（人間についての真理を発見した人）であるから、仏教で説い
ている次の真理は仏教徒以外のすべての人にあてはまる真理である。

①天上天下唯我独尊 ②諸行無常・諸法無我（三法印）③八正道 ④六波羅蜜

4 鶴見大学における必修科目としての「仏教保育」への取り組み

学習の目的は、「いのち」をキーワードとして、保育を学ぶ際に仏教の考えがいか
に重要であるかということに気づいてもらうことと、仏教の「いのちの教え」を
実際の保育活動に生かせるようにすることである。

そこで気づいてほしい要点は次のようなものである。

①私たちの「いのち」がいかにか得がたいものであるかということ。

- ②どの「いのち」も一つしかないこと。
 - ③どの「いのち」も永遠には生きられず、いつ終わるかもわからないこと。
 - ④私たちの「いのち」は互いに関わりあって生きていること。
- それゆえ、保育活動においては次のような子どもを育ててほしいと伝えた。
- ①一日一日を精一杯に生きようとする子ども。
 - ②お互いに感謝と思いやりの心で友だちと仲良く遊べる子ども。

授業の中では「お釈迦さまの教えを学ぶと、一人ひとりの子どもの身体や心を本当に大切にされた保育ができるようになります」と、くり返し話してきた。その結果、15回の授業を終える頃には、かなりの学生が仏教保育の授業に主体的に取り組むようになったと考えている。

*その詳細については、拙稿「仏教保育に対する保育科学生の意識変化について」（鶴見大学仏教文化研究所紀要第13号 平成20年4月発行を参照してください）

5 保育（幼児教育）と仏教の接点を考えるもう一つの重要な視点

上述したように、釈尊の教えを「いのちの教え」として考えていたのであるが、もう一つ重要なことを見逃していたことに気づいた。それは、人間を理解するためには、「中道の教え」を忘れてはいけないことである。

仏教が「人間（いのち）についての真理の教え」であるならば、人間を理解するためには中道の概念も非常に重要である。

中道は、「苦行にも快楽にも偏らない」という釈尊の立場を示した言葉とされるが、人間の身体や心に注目すると、その意味するところの重要性が明確になってくる。言いかえると、中道は仏教的な世界における概念に止まらず、生命の営みの根本的な原理であり、緊張とリラクスの調和を図ること（*二拍子のリズムを保つこと）が心身の健康を維持するだけでなく、正常な判断力や活動を維持するためにも不可欠であることがわかる。

*生命維持の根底である心臓を例にあげると、心臓は1日に10万回の拍動をくり返して血液を全身に循環させている。そのリズムは収縮（緊張）と弛緩（リラクソ）の二拍子である。また、体内に酸素を取り入れるための呼吸も呼（はく＝リラクソ）と吸（すう＝緊張）とを交互にくり返している。より複雑な営みとしては、人体の恒常性を保つ仕組みとしての自律神経が交感神経と副交感神経の絶妙な調和によって私たちの生命活動が維持されていることが知られている。

このように考えたときに、現代人が大きなミスを犯していることに気がついたのである。そのきっかけは学生を見ていて学習意欲が低下していると感じたことと、鶴見大学の附属幼稚園児の坐禅研修の成果について幼稚園の前園長先生からうかがった話（坐禅をするようになってから、積極的に遊ぶようになった）である。

こうした視点からまとめたのが、学会創設25周年を記念した『仏教的世界の教育論理』（法蔵館：2016年12月発行）に掲載した「幼児期の人間形成と仏教・・・身体活動の持つ教育的な意味を中心に・・・」であり、幼児期における遊びやお手伝いの重要性についての考えを述べた。

さらに、愛知学院大学で昨年12月に開かれた本学会の第25回学術大会でも「現代教育の盲点と仏教教育・・・幼児教育におけるお手伝いの意味・・・」として発表したもので、発表要旨集を参照していただきたいが、そこで強調したのは「現代の子育てや教育が知識至上主義に陥って、身体活動を軽視していることに対する警鐘を鳴らすこと」であった。

幼稚園教育の基本を示した「幼稚園教育要領」には、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」と位置づけ、「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として」と示されている。このことは、保育園の保育の基本である「保育所保育指針」においても同様に示されている。

遊びは、いわゆる「お勉強」とは対照的な位置づけをされているように考えられるかもしれないが、それは誤りである。人として生きていく上で大切な「努力する心」「やり遂げる心」「協力する心」「我慢する心」などが養われるだけでなく、より早く、より上手に、より楽しく、といった「工夫する力」や「さまざまな知識」も育まれる（お勉強の成果につながる）のである。

このように考えてくると、都市化や核家族化が進んで、「いのち」の本当の姿が分からなくなってしまう現代社会において、（人間についての）真理の教えとしての仏教が担わなければならない役割は、ますます重要なものになってくるのではないだろうか。

*筆者が書いた関連論文は『仏教的世界の教育論理』に記したので参照してください。

現場における仏教保育

山崎 和子（鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園・園長）

現場における仏教保育

～ 子どもたちの幸せを願って ～

平成29年6月10日（土）

三松幼稚園

園長 山崎和子

正式名は
学校法人総持学園
鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園

総持寺とのつながり

- ・ 入園式
- ・ 大祖堂
- ・ 坐禅
- ・ みたま祭り
- ・ お餅つき

総持学園 建学の精神

だいがくえんじょう ほうおんぎょうじ
「大覚円成 報恩行持」

- ・ 感謝を忘れず ひと 真人となる
- ・ 感謝のこころ育んで いのち輝く人となる

保育三綱領

- ・ 慈心不殺(生命尊重の保育を行おう)
→ 明るく
- ・ 仏道成就(正しきを見て絶えず進む保育を行おう)
→ 正しく
- ・ 正業精進(良き社会人をつくる保育を行おう)
→ 仲よく

仏教保育一年のねらい

- ・合掌聞法（入園、進級を喜び、園生活にしたしもう。）
- ・持戒和合（決まりを守り、集団生活をたのしもう。）
- ・生命尊重（生き物を大切にしよう。）
- ・布施奉仕（だれにも親切にしよう。）
- ・自利自他（できることは進んでしよう。）
- ・報恩感謝（社会や自然の恵みに感謝しよう。）
- ・同事協力（お互いに助け合おう。）
- ・精進努力（最後までやりとげよう。）
- ・忍辱持久（教えを知り、みんなで努め励もう。）
- ・和顔愛語（寒さに負けず、仲良く遊ぼう。）
- ・禅定静寂（よく考え、落ち着いた暮らしをしよう。）
- ・智慧希望（希望を持ち、楽しく暮らそう。）

日々の保育の中で・・・

- ・報恩感謝（感謝のできる子）
お釈迦さま、お弁当
- ・生命尊重（命を大切にする子）
生き物、絵本、お誕生会
- ・布施奉仕（思いやりにある子）
→『お友だち！お先にどうぞ』
創立90周年 幼稚園教育目標

三仏忌

- ・ お釈迦様のお誕生（花祭り） 4/8
- ・ お釈迦様のお悟り（成道会） 12/8
- ・ お釈迦様の最期（涅槃会） 2/15

保育の中の礼拝（計11回）

1学期 5回	2学期 5回	3学期 6回
始業式（花祭り）	始業式	始業式
こどもの日	七五三	道元禅師様降誕会
プール開き	太祖様降誕会	涅槃会
七夕まつり	成道会	ひな祭り
終業式	終業式	卒園式
		修了式

まとめにかえて
今感じていること

仏教保育 = 日本人の心

- ・ 命
- ・ 食べる時
- ・ 仏さま（御仏壇・お墓参り→ご先祖さま）
- ・ 感性豊か

日常の中に根付いている → 習慣・文化

保育者論としての仏教保育

橋本 弘道 (鶴見大学短期大学部 准教授)

保育者論としての仏教保育

鶴見大学短期大学部 保育科

橋本 弘道

本学保育科における独自の授業
(卒業必修科目)

前期

後期

宗教学

仏教保育



宗教的価値観に基づいて生活している
人達について考える。

保育者論としての仏教保育

仏教主義の保育を行っている園に就職するために仏教保育を学ぶわけではない。

保育者にとっての考え方の一つの指針となるように、仏教の考え方をできるだけシンプルにし、現在化する必要がある。

仏教保育の授業の流れ

- ・仏教保育の定義を確認
- ・釈迦の一生を概観
- ・本学の建学の精神を確認
- ・保育者の**人生観**が保育者の**保育観**を形成するとの捉えで授業を展開



保育者論としての仏教保育

本学における仏教保育の定義

「いのちを大切にしましょう。」という「おしゃかさま」の教えを子どもたちの**こころ**に育て、自分の「いのち」も、自分以外の「いのち」も大切に子どもを育てていく保育

仏教保育の

キーワードは「いのち」と「こころ」

- ・いのちの**つながり**について考える。
- ・自分の**いのち**は、自分だけのものか？
- ・長い間、一回も欠けることなく**いのち**が**つながってきた**からこそ、わたしたちは今ここに存在している。
- ・**いのち**は、自分1人のものではない。
- ・**多くの人や多くの祖先**に支えられて今の自分がある。

仏教保育で最も重要なことは？

「おしゃかさま」の教えとはこれこれですよ。

生活体験により**こころ**を養う

遊びを通して体験

「お友達と仲良くしましょう」

「思いやりを持って接していきましょう」

遊びを通して、食事を通して、日常の体験を通して学んでいこう

保育者の**姿勢**が重要

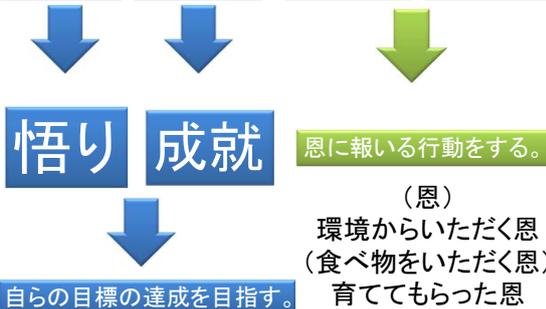
本学保育科の求める保育士像とは？

→日本の**伝統**や**文化**を理解し、人間が生きるために育んできた**宗教的情操**に深い理解を持ち、**慈悲深い心**ですべての子どもに接することができる保育者。

さらに…

大覚円成 報恩行持

大覚 円成 報恩 行持



大覚円成 について考える

釈迦の成長と人生観

- ・現実生活の悲哀を感じる。
- ・人間は、不安の中に生きていることを実感した。
- ・人間はどのように生まれ、老い、病み、死んでいかなければならないのかという問題に直面する。

人生は**苦**である！？

四苦八苦

生・老・病・死

限りある「いのち」だからこそ懸命に生きる

悲観的的人生観

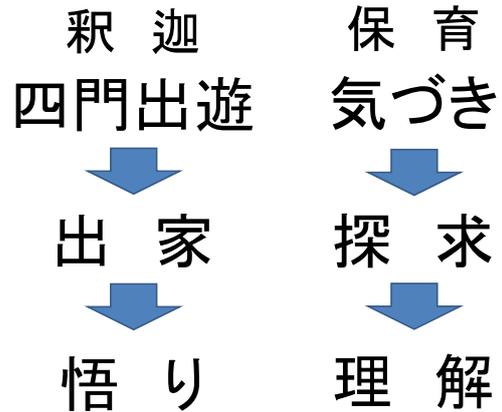
世の中の原理を理解

自らと法を頼りに力強く生き抜くことを提案

悟りにつながる道 → 気づき

保育において釈迦から学ぶこと
↓
気づけることを持つということ

- 同じものを見ても**気づき**がある人とない人がいるのはなぜか？
- 子どもたちの様子を見て、**何かを気づける人と気づけない人との差**はどこにあるのか？
- **気づき**があつてはじめて、その**問題を解決**しようという**動機**が生まれる。
- **動機**が生まれたら**探求**がはじまる。
- 保育で最も重要なものが **気づき**→**探求** である。



釈迦の悟りについて取り上げる

- 中道の思想
- 縁起説
- 三法印
- 自灯明・法灯明
- 四諦

釈迦の出家と悟り

29歳のときに出家する。

修行法・・・瞑想・苦行

瞑想・・・不安や苦悩を克服できるが、瞑想から離れると依然として心に不安が残る。

苦行・・・肉体を苦しめることはますます心を乱すものであった。

苦行を捨てる

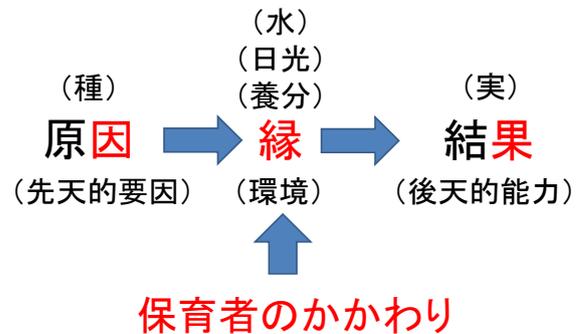
享楽的生活 ← 両極端 → 苦行(6年)

中道の思想

縁起とは？

- お互いが関わり合って生きている。
- さまざまないきものが、お互いに関わりながら生かしあっている。

縁起説



三法印

- 諸行無常
- 諸法無我
- 涅槃寂靜

● 諸行無常

- この世のすべてのものは、移り変わる。
- 無常だから子どもも育つし病氣も治る。
- 常に移り変わっていくからこそ、一瞬一瞬を大切にしなければならない。

● 諸法無我

- すべてのものは関わり合っている。
- 自分だけが存在しているのではない。
- すべてのものは、かかわりの中で生きている。



子どもたちは、幼稚園や保育園の集団生活でこのことを学ぶ

● 涅槃寂靜

- すべてのことをよく理解しようと努力し、適切な生活を送ること。

そのためには……。

なぜそうなるのだろうか？ どうしたら良い保育ができるのだろうか、常に自分の頭で考える。

自灯明・法灯明

自灯明

自分の頭で保育についてしっかりと考えること。

法灯明

保育の専門知識を駆使して、正しい保育とはどのようなことかということを検証していくこと。

四諦(したい)という考え方

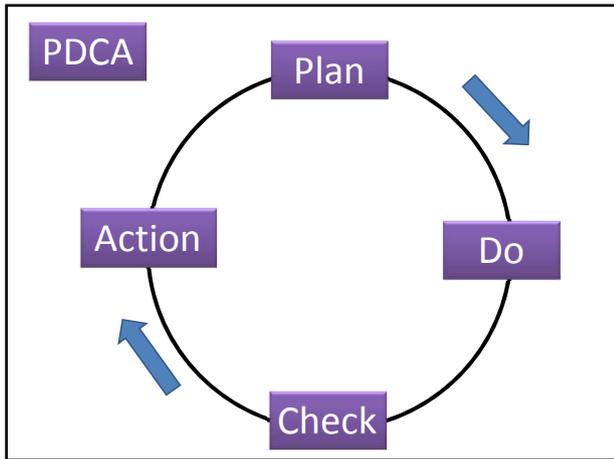
- 物事は筋道をたてて考えることが大切
- 何でも自分の思いどおりにしようという人間の執着心によって苦しみや悩みが生まれる。
- それを取り除く方法が四諦である。

四つの諦の意味

- 苦諦・集諦(じつたい)・滅諦・道諦
- 苦諦
人生にはさまざまな苦しみがある。
- 集諦
その原因(集)をしっかりと見つめること。
- 滅諦
それを取り除くためにはどうすればよいかを考えること。
- 道諦
そのための具体的な方法を知り実践すること。

保育における四つの諦の意味

- 苦諦
保育の難しさや失敗したことをしっかりと自覚する。
- 集諦
その難しさや失敗を客観的に把握する。
- 滅諦
その原因を取り除き、よりよい保育をするためにはどうすればよいかを考えること。
- 道諦
そのための具体的な保育方法を知り実践すること。

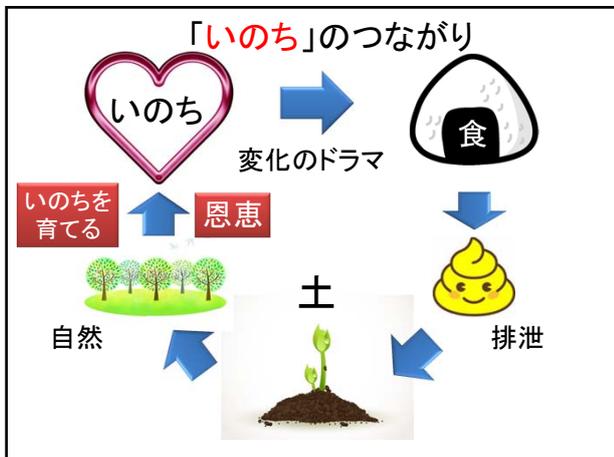


報恩行持 について考える

五観の偈の精神

食べる

いのちをいただく
ということについて考える。



家畜のいのちは？

人間からもらった、いのちの長さは？

牛 → 3年

豚 → 6ヶ月

鳥 → 60日

日々の食べ物も含めて、さまざまな「もの」や「ひと」のおかげで私たちは生きることができる。それらの恩に報いるような行動をこころがけたい。

仏教保育に基づいた短期大学部保育科のアドミッションポリシー

学生像

- ①まじめに高校生活を送ってきた。
- ②これまでの人生において自らの課題達成のために真剣に取り組んできた。
- ③保育者養成校では、保育に関する専門的な学びがあることを理解している。
- ④絶対に保育者になりたいという強い気持ちを持っている。



物事に真摯に取り組める



課題達成能力を持っている
勉強でも部活でも何でも良い



保育の専門的学びがあることを理解している

入学して欲しい学生像

乗り越えなければ
ならない**課題に挑める**ところを持った

「できないかもしれないけど、
よってみよう!!」

保育者論としての仏教保育

子どもを健やかに育てるには、保育者はその専門性と共に**資質**が問われる。

保育所保育指針 第5章 職員の**資質向上**

子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の**倫理観**、**人間性**並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と**自覚**が基盤となる。

保育の目標: 保育所保育指針 第1章 総則 保育所保育に関する基本原則(2)

ア保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、保育所の保育は、子どもが現在を**最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う**ために、次の目標を目指して行わなければならない。

(ア) 十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、**生命の保持及び情緒の安定**を図ること。

(イ) 健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、**心身の健康**の基礎を培うこと。

(ウ) 人との関わりの中で、**人に対する愛情と信頼感**、そして**人権を大切に**する心を育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、**道徳性の芽生え**を培うこと。

(エ) **生命、自然**及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する**豊かな心情**や**思考力**の芽生えを培うこと。

(オ) 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、**言葉の豊かさ**を養うこと。

(カ) 様々な体験を通して、**豊かな感性**や**表現力を育み**、**創造性の芽生え**を培うこと。

イ保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の**特性**や保育士等の**専門性**を生かして、その援助に当たらなければならない。



生命(いのち)・心情(こころ)

平成 29 年度仏教文化研究所公開シンポジウム

演題

「仏教・保育・子どもの環境」

鶴見大学仏教文化研究所学内兼任研究員・鶴見大学短期大学部保育科講師

仙田 考

要旨

幼稚園教育要領では、「幼稚園教育は環境を通して行うことを基本とする」とあり、また保育所保育指針でも、「保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている」とあるように、乳幼児施設の保育と子どもの環境との関わりは不可欠である。また仏教園においては、栽培、食育等を通して「いのちの大切さ」や「感謝の気持ち」を育む活動が積極的に行われている。本講演では、幼稚園・保育園の屋外環境：園庭に着目して、仏教・保育・子どもの環境の関わりについて考えていきたい。

鶴見大学仏教文化研究所 主催
平成29年度公開シンポジウム講演資料集
「仏教に学ぶ保育の原点」

発行日 2017年6月10日
編集・発行 鶴見大学仏教文化研究所
〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
E-mail: bukken@tsurumi-u.ac.jp